

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	西淡路小学校
学校長名	赤江 伸吾

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西淡路小学校では、第6学年 53名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度は、国語科においては全国の平均正答率を0.8ポイント下回る結果となった。また算数科においては、全国の平均正答率を3.0ポイント下回る結果となった。無回答率においては国語科、算数科とも全国平均よりも少なく、学習に対する意欲の高まりや、粘り強く取り組む姿勢がうかがえる結果となった。

児童質問紙では「将来の夢や目標をもっていますか」という質問項目で肯定的な回答が多く、これまでキャリア教育で様々な立場の方と交流したり、体験活動を行ったりしてきた成果の表れだといえる。一方で、家庭での学習時間や読書の項目では数値が低く、学習の計画を立てたり、時間を有効に使ったりする自律した生活習慣に課題がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

平均正答率は、ここ数年安定している。これは校内研究教科として授業改善に努めてきた結果であるといえる。また、朝の学習で書くタイム、話すタイムを設定していることも子どもたちの学力の土台となっている。また、数年前から学校で漢字検定を受験することで、子どもたちも意欲的に漢字の学習に取り組むようになってきている。

[算数]

平均正答率は、全国と比較すると3.0ポイント下回っている。算数科においてはアンケートにおいても苦手意識をもつ子どもの割合が多く、中学年頃から計算が複雑になることから、意欲が低下する傾向がある。無回答率は低いものの、毎年図形の領域で課題がみられる。タブレットを効果的に活用し、子どもたちが具体的にイメージできるように授業を構成していく必要がある。

[理科]

平均正答率は、全国と比較すると10ポイント下回っている。他の教科と比較しても2極化が大きく、学習を振り返ったり、自分で自主的に学習したりする時間がもてていないと考える。単元の評価テストの機会に、自主的に学習の計画を立てることができるようになる必要がある。

質問調査より

「将来の夢や目標」に関する項目では、肯定的に回答する割合が高かった。これは人権教育を基軸とした実践を積み重ねてきた成果である。様々な立場の方との出会いや、体験活動を通して、自分の将来について考えたり、目標とすることを見つけたりする機会を設定している。また「先生はあなたの良いところを認めてくれるか」という項目でも肯定回答が多く、子どもたちと教員の関係も丁寧に築かれていることがうかがえる。

一方で、「学校へ行くのは楽しい」「普段の生活での幸福感」などの項目は、全国に比べて数値が低い。学習や友人関係に自信がなく、不安を抱えながら生活している子どもがいることが明確となった。そうした子どものSOSをキャッチし的確な支援につなげていくことが学校としても課題である。

今後の取組(アクションプラン)

国語科においては大阪市の学力向上支援チーム事業を受け、スクールアドバイザーの指導・支援による授業改善に取り組んできた。また、漢字検定の受験や朝の学習の充実によって、子どもたちの基礎学力が確実についてきている。一方で算数科においては、苦手意識から前向きに学ぶことができない子どももいる。中学年から基礎となる計算に粘り強く取り組ませ、「やればできる」と子どもたちが自信をつけることができるように授業を構成していくなければならない。学校だけではなく、家庭や地域とも子育てのイメージを共有して、一緒に働きかけていく必要がある。

児童質問紙の「学校へ行くのは楽しい」の項目の数値が低いことを真剣に受け止め、子ども主体の学校づくりを推進していかなければならない。教員が教える、指導する教育から、これまで以上に子どもたちが自ら考え、責任をもって行動できるように、教員の支援の在り方を見直す必要がある。

【 全体の概要 】

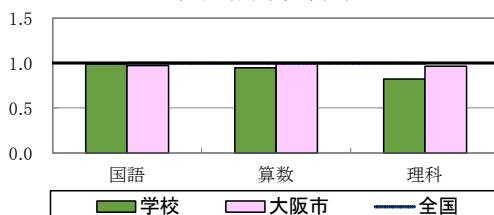
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	66	55	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

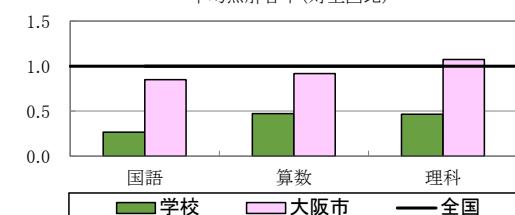
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.9	1.7	1.3
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



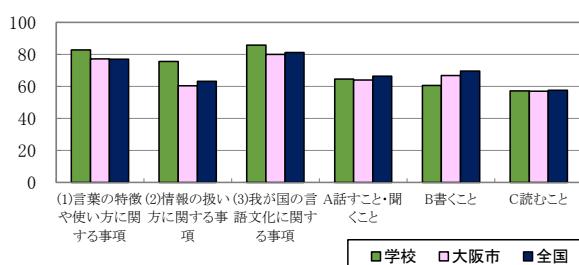
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	82.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	75.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	85.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	60.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	57.1	56.9	57.5

【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	63.0	62.7	62.3
B 図形	4	45.8	56.4	56.2
C 測定	2	50.0	54.9	54.8
C 变化と関係	3	50.7	58.2	57.5
D データの活用	5	61.3	61.9	62.6

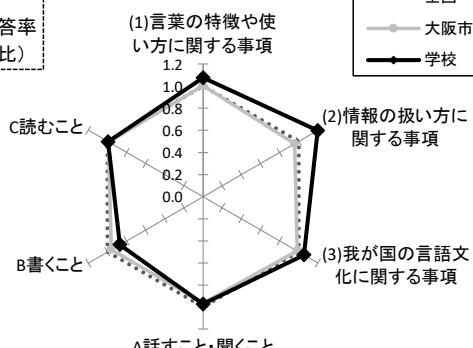
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



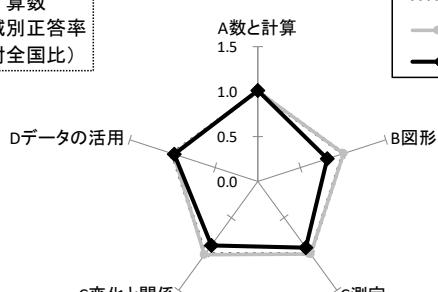
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

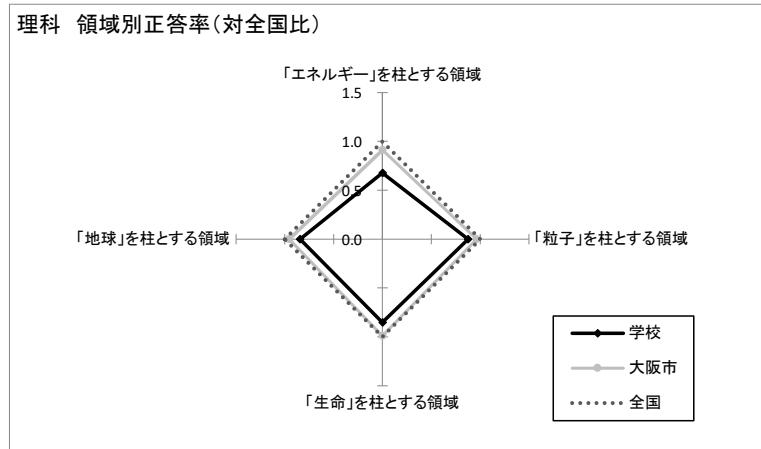
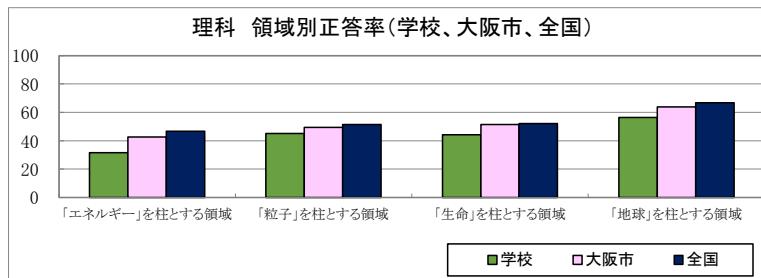


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	31.6	42.7	46.7
	6	45.0	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	4	44.3	51.4	52.0
	6	56.3	63.8	66.7



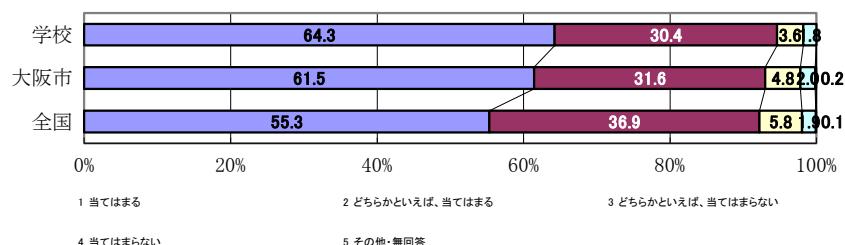
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

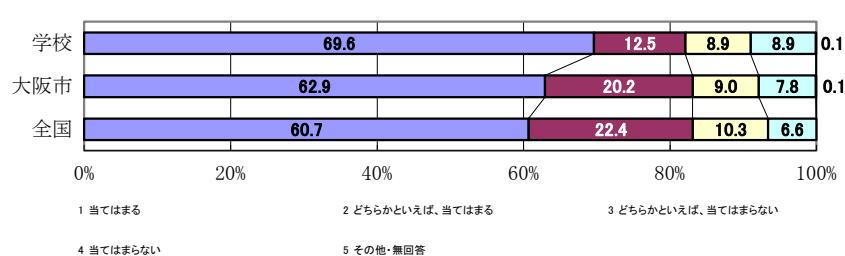
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



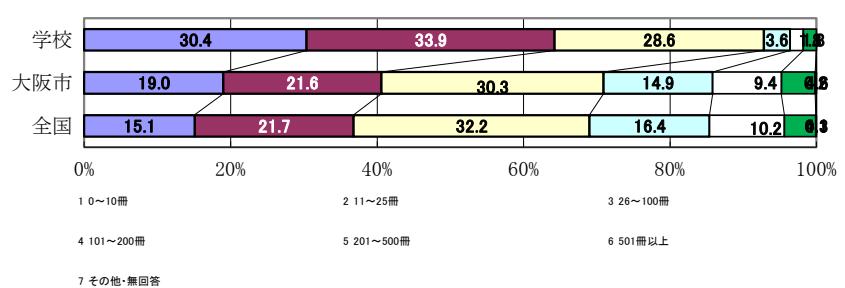
7

将来の夢や目標を持っていますか



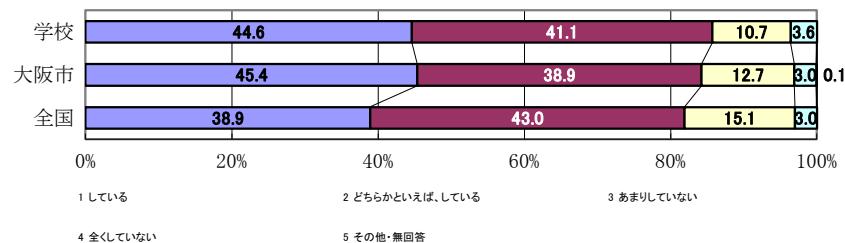
22

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)



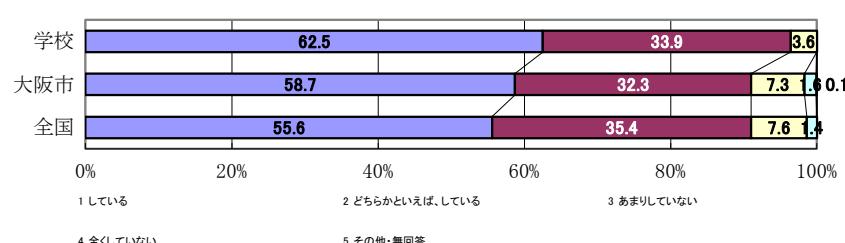
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



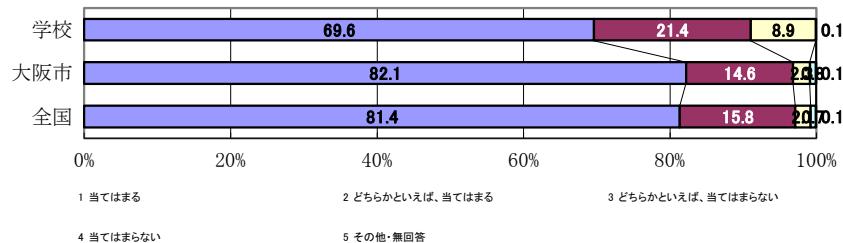
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

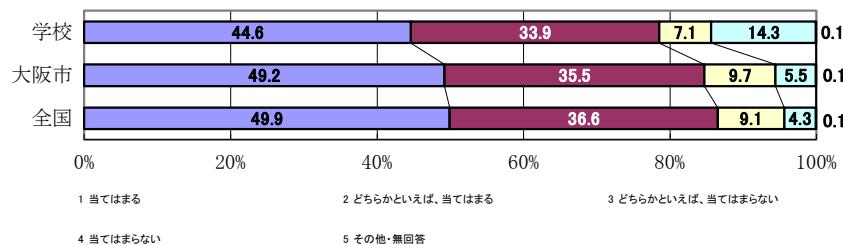
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



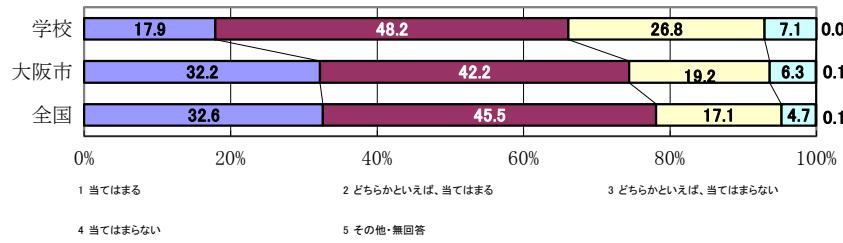
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



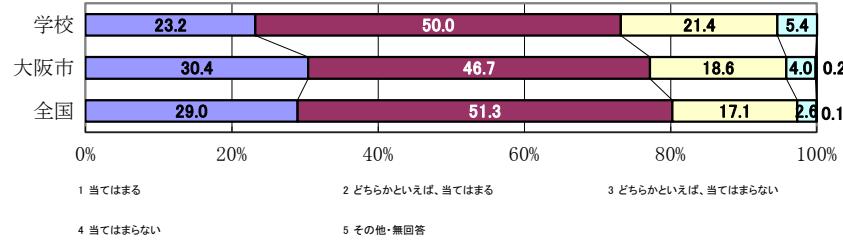
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



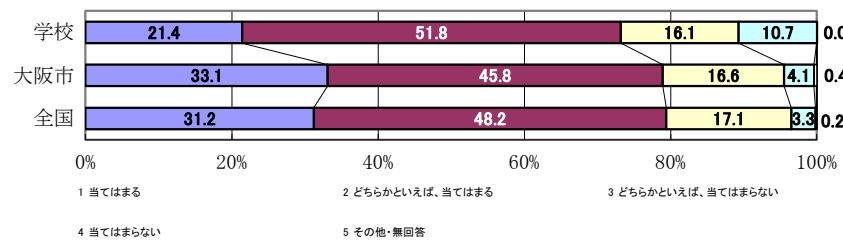
32

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



36

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかつた点を見直し、次の学習につなげることができますか



学校質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

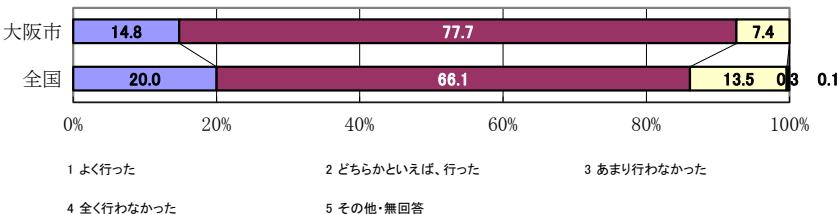
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

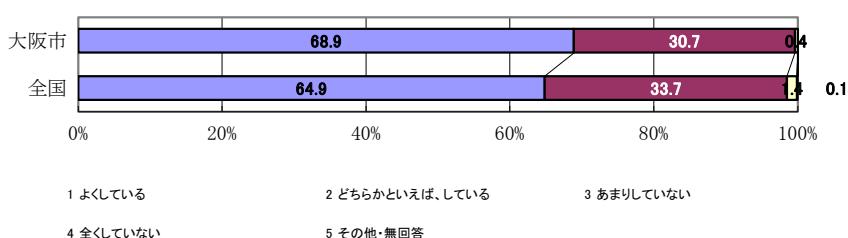
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

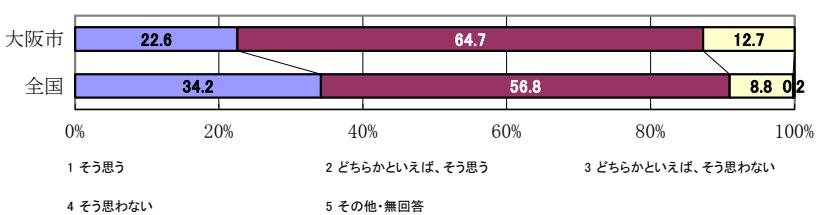
学校 「よくしている」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりする教職員が多いと思いますか

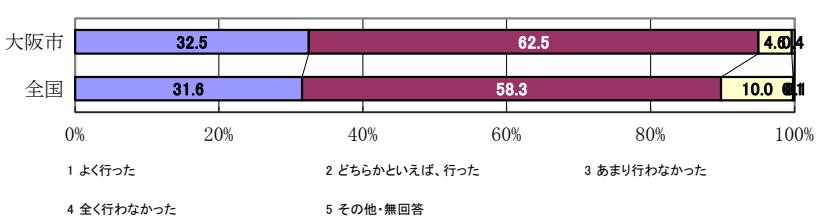
学校 「そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

